

2018 1/23

No.2059

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



小学生ランナーが日ごろの練習の成果を競う「第27回よこはま国際ちびっこ駅伝大会」が13日、日産フィールド小机で行われた。3177人が出場し、冬晴れの下を駆け抜けた。



contents

視点・点描	3
新成人の心を傷つけるな	
経 済	4
「2018年経済展望」	
楽観論が支配、慢心に落とし穴も	
社 会	8
なぜ五郎はボロ家へ帰ってきたのか	
エコノミストが見た「北の国から」	
企業最前線	10
住宅とゼネコン、提携が加速	
背景に新設住宅市場の縮小	
広告珍談	12
広告はたのしい⑤⑥	
海とフネの博覧会	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇2018年2月特別講演会

2018年2月8日(木)

富士ゼロックス神奈川と共催

「第9回神奈川TOPセミナー」

ホテルニューグランド

▽基調講演

午後3時30分～4時40分

本館2階「レインボーボールルーム」

講師はフィリップス・ジャパン代

表取締役社長の堤浩幸さん

演題は「第4次産業革命に立ち

向かうデジタル変革とエコシス

テムが生み出す企業競争力」

▽特別講演

午後4時50分～5時50分

本館2階「レインボーボールルーム」

講師は元プロ野球選手、スポー

ツコメンターの山崎武司さん

演題は「人は変われる! 27年

の野球人生から見た『リーダー

シップと人財育成術』

▽懇親会

午後6～7時30分

タワー3階「ベリー来航の間」

視点 点描



新成人の心を傷つけるな

晴れの舞台が台無しとなった。振り袖の販売・レンタル業者「はれのひ」(横浜市中区)が突然営業を取りやめ、成人の日に晴れ着を着られない新成人が相次いだ問題である。

契約した新成人らから「業者と連絡が取れない」「申し込んだ着物が届かない」といった相談が横浜市や県警などに寄せられてい

る。多くが予約通りに着物を着られず、支払った金も戻らない被害に遭ったとみられる。別業者が手配した着物で代用した人もいたが、振り袖が着られず、成人式への出席を諦める人も続出した。

お気に入りの振り袖が着られなかった新成人のことを考えると胸が痛む。県警や各地の消費生活センター、横浜市などは連携して、

再発防止に向け、全容解明に努めてほしい。

東京商工リサーチ横浜支店によると、はれのひの負債総額は2016年9月期時点で約6億1千万円。同期の売上高は一部求人サイトなどで4億8千万円としていたが、実際は3億8千万円で、当期利益は3億6千万円の赤字だった。同期末で約3億2千万円の債務超過に陥っていた。

さらに、はれのひは「資本金1千万円」と公表していたが、今年1月9日時点の商業登記簿では150万円だったという。

東京商工リサーチ横浜支店は「売上高や資本金を大きく見せることで、信用性が良く映るよう見せ掛けていたとみられる」と指摘している。

また、関係者への取材で、はれのひが着物を仕入れていた業者への支払いが16年10月ごろから滞っ

ていたことも判明している。経営者は振り袖の販売・レンタルの業務を継続できないことを分かっていたはずである。それなのに突然の営業取りやめは極めて悪質であり、県警には徹底した捜査を求めたい。

一方、着物関連業界から被害を受けた新成人へ支援の輪が広がっている。「記念写真だけでも残してもらえば」と、振り袖のレンタルから着付け、ヘアメイク、スタジオ撮影までの一式について無償で提供するサービスなどが行われている。

業界にいる人たちが、一生に一度の機会に晴れ着を着られなかった新成人の痛みを重く受けとめている。被害に遭った人たちはぜひ活用し、悪夢を乗り越え、思い出作りをしてほしい。

(神奈川新聞社統合編集局次長

石曾根 剛)

海とフネの博覧会

世界で初めて博覧会が開かれたのは1761年、ロンドン。日本はまだチャンバラやつてる宝暦10年である。それを皮切りにヨーロッパでもアメリカでも、競って万国博覧会が開催された。

参加するウィーン万国博への事前興行。19万2878人の入場、主催は文部省であった。

それ以降、日本各地で博覧会だらけ。昭和になると「海とフネの博覧会」がブームになった。その一例を。1930(昭和5)年、日本海海戦25周年記念 海と空の博覧会が上野公園。第2会場は横須賀。呼び物はもちろん東郷平八郎元帥と、軍艦「三笠」。両会場

で81万5167人もの入場であった。

日本初の博覧会は1871(明治4)年、《京都博覧会》。主催は三井家など豪商3人。会場は西本願寺大書院。ヨロイカブトや、古陶磁や古書画が出品され、骨董市のように。3万1千人が入場。イベントはいまもある「都をどり」。

おなじ年、神戸で《観艦式記念海港博覧会》。神戸港に200隻もの艦船が集

負けじと首都東京はおなじ年、湯島で《湯島聖堂博覧会》を開催。目玉は名古屋城の金のシヤチホコ。じつは翌年、日本が初めて

結、天皇陛下がご天覧になった観艦式を記念しての開催。第2会場の湊川公園には、軍艦「睦奥」の大砲と砲弾の模型を展示。アトラクションは、生身の人間を大砲からぶっ飛ばす、「人間大砲」が人気になった。

1936(昭和11)年、福岡で《博多築港記念大博覧会》。海岸埋め立て地で開かれ、ミナト・ハカタの存在感をしめして大成功。

1935(昭和10)年、関東大震災で潰滅的な被害をうけた横浜で《復興記念横浜大博覧会》の開

催。会期は3月26日から5月24日まで。主催は横浜市。会場は震災で倒壊した建築物を埋め立てて造成された、山下公園。5つのパビリオンには各県が出展。飛行機と戦車をアピールする「陸軍館」。1万トン級の巡洋艦の司令塔を模したパビリオン「海軍館」には、大きなイカリと軍艦旗がひるがえった。329万9千人の入場者であった。

図はそのポスター。博覧会のシンボルタワーとフネのエントツを組み合わせた構図。そして船出のテープが、キラキラと。

1989(平成元)年、横浜開港130年・市政100年記念の企画委員をつとめたボクは《横浜博覧会》で、いくつかのパビリオンに関わった。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)(図)1935(昭和10)年開催の《横浜博覧会》ポスター。「別冊太陽 日本の博覧会 寺下勅コレクショ」2005年・平凡社刊より

